



発行責任者

病院長

岡野友宏

編集責任者

広報委員長

高橋浩二

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

## 最新の矯正治療

矯正歯科 科長 榎 宏太郎

歯並びの治療と聞くと、「子供の治療」、「口の中の装置が目立つ」、「時間がかかる」、など、あまり愉快なことは思い浮かばない方が多いのではないのでしょうか。確かに、数年前までは、その印象が正しかったかもしれませんが。しかし、最近ではかなり変わってきております。

そもそも、なぜ、歯並びはきれいなほうがいいのでしょうか？実は、歯並びには、その人の一生にかかわる様々な影響が隠されています。それは、歯並びがでこぼこだと虫歯や歯ぐきの病気にかかり易い、という直接的なことばかりではありません。上下の歯のかみ合わせは、かむための筋肉や唇を動かす筋肉、頭の位置を決める筋肉などの働き方と密接に関連しています。そのため、歯並びの善し悪しは、頭部の血流量や全身の姿勢制御、顔の形や表情までも左右してまいります。姿勢が悪いと歳よりも老けて見えてしまいますし、笑った時の表情やしわの出来方、唇の形などは、その人の心理状態や対人関係にまでも影響を与えていると言われています。また、ご存知のように、長い年月を経て、虫歯や歯ぐきの病気が進むと、歯を抜かざるを得ないことも多くなります。そうなると、入れ歯やインプラント治療が必要になります。その際に、もし、他の残っている歯の位置や方向が悪いと、しっかりとしたい入れ歯やインプラントが作りにくくなってしまいます。しっかりと入れ歯が作りにくいと、すぐ壊れてしまうし、… 大変ですよ。

かみ合わせや表情は、年齢とともに変化します。それが年齢相応の変化なら問題無く許容されるでしょう。老化現象(エイジング)とは正常なものなのです。しかし、それが、もし早まってしまったら…、その場合には、治療すべき対象となります。アンチエイジングという言葉がありますが、私はこの言葉を聞いた時に奇異な感じがしました。正常なエイジングなら抑制する必要は無いと思えたからです。でも、正常なエイジングの『スピードが早まるのを抑制する』、という考え方があるのならば、賛成です。口腔や顔面の領域でもしっかり考えないといけません。まさに、でこぼこや出っ歯は、その後の口腔内の老化を早めてしまいます。

長い一生で、とくに中年期以降での生活の質をより高く維持するためには、矯正治療は不可欠と思って頂いた方がよさそうです。

だったら、もっと目立たずに、もっと短期間で、治療してくれればいいのに、と思われませんか。全くその通りです。そのような皆様からの要求に応えるべく、大学では様々な方法を導入したり、開発しております。ご興味のある方は矯正歯科までご相談下さい。



### 1) 目立たない矯正装置

当科では、日本で初めてインビザライン(Invisalign)というシステムを導入しました。透明な熱硬化性の樹脂(ポリウレタン系素材)の装置で、2週間で1セットを交換して歯を少しずつ動かします。非常に高度なコンピュータ・シミュレーション技術で、最終的なかみ合わせを計算し、無駄の無い移動を実現します。自分で取り外しができるので、歯磨きしやすいことが大きな利点です。



### 2) 無理なく動かす矯正装置

ごく最近ですが、実は、歯を動かすための力(矯正力)は、ほんの僅かな力でも大丈夫であることがわかってきました。今までの矯正治療に使われていた力

の半分以下の可能性があります。当科では、それを実現する装置を開発しましたが、何と、治療に要する期間もかなり短縮できそうです。我々専門家にとっても、まさに「目から鱗」の知見です。（歯からブラケット、と言った方がよろしいでしょうか？）

現在、臨床研究として、希望された患者さんにその効果を評価して頂いておりますが、次世代の新しい治療法になるものと考えております。



（歯を抜歯した例：装置をつけてから16回）

## 矯正歯科 紹介

矯正歯科は歯科病院の5階にございます。エレベーターを降りて左手に矯正歯科受付があります。

矯正治療は、不自然な位置にある歯やあごの骨を整えて美しい歯並びや正しいかみ合わせや、さらにバランスのとれた口元を作り出すことです。きれいな歯並びは、むし歯や歯周病の予防につながり、将来にわたってお口の健康維持に貢献します。さらに、よいかみ合わせは 消化を助け、からだ全体の健康にもよい結果をもたらします。

患者様それぞれで歯並びに関する悩みは異なります。それぞれの患者様に、より最適な治療内容を決定するために先進的な検査機器を役立てております。また、矯正装置も透明な装置や目立たない装置など患者様が満足していただけるものを選択するよう努めております。

顎変形症とは上あごや下あごに大きさや形、位置などのズレ、歪みによって、顔面の変形と、かみ合わせの異常を起こしている状態です。顎変形症に対して当科では機能面の回復と審美面の改善の観点から、口腔外科、補綴科とのチーム医療を行い、レントゲン等による硬組織、軟組織の形態分析、筋電図波形、顎運動解析等による機能的分析から総合的評価を得て患者様の希望にこたえる治療方針を提示し、インフォームドコンセント後、治療を行っています。

口唇口蓋裂は唇や上あごが割れた状態で生まれてくる先天的な病気です。形成外科と耳鼻科、小児科、麻酔科、言語治療士、福祉相談室、歯学部（小児歯科、矯正歯科、補綴科、口腔外科、口腔衛生など）で構成される昭和大学口蓋裂診療班により医学部・歯学部を同じ大学内に擁する昭和大学ならではの密接した総合的チーム医療で、高い評価を受けております。

当病院は、指定自立支援医療機関であるとともに、顎口腔機能診断料算定の施設基準を満たしています。上記の顎変形症、口唇口蓋裂や特定の疾患については、健康保険の適用が可能となりますので初診相談担当医とご相談されてみてください。

お読みいただいているご本人はもとより、ご家族やお友達で矯正治療をご検討されている方がいらっしゃいましたらどうぞ矯正歯科にご連絡下さい。お電話で結構です（代表03-3787-1151から矯正歯科外来につないでいただきます）。当科ではその日の初診相談担当医が迅速に対応させていただきます。

当科ホームページもございます。<http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/dent/ortho/>



初診相談では患者様ひとりひとりの症状やお困りのこと、費用などに対して丁寧に説明させていただきます。受付は平日9時から午後3時まで、土曜日は9時から10時半までとなっております。どうぞご遠慮なくご相談ください。

（医局長 山口徹太郎）



## 昭和大学歯科病院医療連携講演会

医療連携室では以下の講演を企画致しました。奮ってご参加下さい。

1. 日 時 平成21年6月20日(土)18:00～19:00
2. 場 所 昭和大学歯科病院1号棟6階臨床講堂
3. 演題・演者
  - ① 昭和大学口腔ケアセンターがめざす連携医療  
向井 美恵(昭和大学口腔ケアセンター長・歯学部口腔衛生学教授)
  - ② 医療連携について  
佐野 晴男(昭和大学歯科病院総合歯科教授・地域歯科医療連携室長)
4. 対 象 地域歯科医師会会員及び衛生士・事務等のスタッフのみなさま
5. その他 講演会終了後、院内見学及び懇親会を予定しております。

(医療連携室)

## 健口フェスティバルのお知らせ

昨年度より開催しております健口フェスティバルを、今年度は7月11日(土)に開催することとなりました。病院及び職員の協力のもと、公開講座・院内コンサート・健口体操・技工体験など、楽しくそしてためになるイベントを企画しておりますので、地域の皆様方をはじめ、たくさんの方々のご来場をお待ちしております。

### 第12回 昭和大学歯科病院 公開講座

暮らしと健康～健康を支える健口～

総合司会／井上 美津子(昭和大学歯学部小児成育歯科学教授)

- ① 日常生活に潜む健康リスクとしての歯周病  
(昭和大学歯学部歯周病学教授 山本 松男)
- ② 歯科からの食育支援  
(昭和大学歯学部小児成育歯科学教授 井上 美津子)
- ③ 歯科衛生士による健口体操

7月11日(土) PM1:00～2:30 昭和大学歯科病院 6階 臨床講堂

(管理課)

けんこう  
**健口フェスティバル**

会いにきてね！  
待ってるよ！！

**公開講座**  
午後1:00～  
①「日常生活に潜む健康リスクとしての歯周病」  
②「歯科からの食育支援」  
③「健口体操」  
6F講堂

**健康相談**  
午後11:30  
1Fロビー

**院内コンサート**  
午後3:00  
1Fロビー

**技工体験**  
午後1:00  
3F技工室

**模擬店**  
午前11:30  
駐車場  
やきそば  
やきうどん

平成21年7月11日(土) 11:30から  
昭和大学歯科病院  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
目黒線洗足駅下車 徒歩2分

第2回  
**歯科病院院内コンサート**

日時:2009年7月11日(土) 15:00開演  
場所:昭和大学歯科病院1階ロビー  
(東急目黒線「洗足」駅下車徒歩3分)

出演:品川少年少女合唱団  
高橋 一真(口笛奏者)  
昭和大学グリークラブ  
歯科病院職員ボランティア

曲目:品川少年少女合唱団  
スマイル (北川悠仁作詞・作曲)  
空と水 (うらさわこうじ作詞/若松正司作曲)  
虫歯のこどもの誕生日 (みなみらんぼう作詞・作曲) 他

高橋一真(口笛奏者)  
歌そうそう (嵯山良子作詞/BEIGN作曲)  
森のくまさん (アメリカ民謡) 他

昭和大学グリークラブ  
すいすいずっこおぼし (信長貴富編曲)  
ていんさくぬ花 (信長貴富 編曲) 他

フルートアンサンブル(歯科病院職員)  
子守唄 モーリツァルト作曲 他

主催:昭和大学歯科病院健口フェスティバル実行委員会  
お問い合わせ先:03-3787-1151(内線395)/担当:平野

平成21年4月21日に歯科病院6階第1臨床講堂において第9回昭和大学摂食・嚥下研究会(担当:小児成育歯科学教室)が開催されました。当日は開始時間が19時から、また大雨の天候にも関わらず、院外からの参加者も含めて70名程が参加されました。

今回は、“小児の摂食・嚥下障害への対応”というテーマで2題の発表がありました。医学部小児科田角勝先生が、「経管栄養からの脱却目的で治療入院した小児症例から学べること」をご講演なさいました。出生時の全身状態や、哺乳困難などの理由から経管栄養となることも達があります。その中には摂食・嚥下機能に問題は無くても経管栄養に依存してしまうなどの理由から経口摂取が進まない子どももいるのです。全身状態を観察しながら経管からの注入量を減らし、空腹感を得て食に対する意識を引き出し経口摂取を進めて行く興味深い内容でした。また、口腔リハビリテーション科綾野理加は「症例を通して対応の基本を考える」と題し、小児に対する摂食機能療法は、患児に対する指導訓練のみならず、家族(特に両親)、療育環境などを考慮した指導を行なうことが重要であることをお話しさせて頂きました。

昭和大学歯学部では、1980年代から口腔衛生学教室が障害児に対する摂食・嚥下障害に関する臨床と研究を、第1口腔外科学教室が頭頸部腫瘍術後患者に対する摂食・嚥下障害に関する臨床と研究をそれぞれ他大学に先駆けて行なって来ました。それまでは各科で(口腔衛生学教室では医学部小児科の病棟にうかがって外来をしていました!)臨床を行なっていましたが、平成11年歯科病院1階に言語・摂食・嚥下リハビリテーション診療室が設置され、また、平成16年には口腔リハビリテーション科が開設され常時摂食・嚥下障害にお悩みの患者さんに対応できるようになりました。また今年で第15回を迎える日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の最初の開催施設は昭和大学歯学部(会長は前口腔衛生学教室教授金子芳洋先生)でした。そのような経緯の後、4学部8病院からの発起人のもと、平成16年4月24日に第1回昭和大学摂食・嚥下研究会が開催されました。この研究会は、昭和大学内での摂食・嚥下障害に関する医療情報の共有と臨床レベルの向上、学際的な研究や教育などへの取り組みを目指した研究会があれば、より充実した臨床や研究・教育が可能となる、という趣意のもとに設立されました。

赤ちゃんからご高齢の方まで、摂食・嚥下障害は広い年齢層、様々な疾患に見られる症候です。今後も患者さんお一人お一人の生活の質の向上のために勤しんでいきたいと考えています。



### 編集後記

先ず、発行が遅れたことをお詫びします。今後は、このようなことの無いよう重々気をつけます。

さて、世の中は、新型インフルエンザの話題で持ちきりです。自衛手段は、手を洗うこと、うがいをする、人混みを避けることの3つが最有力だそうです。特に、手洗いとうがいは、その言葉の前に「よく」という形容詞をつけてまめに行うことが肝要です。感染しないように、十分気をつけて乗り切りましょう。

(K. A記)

